

和名：ニセコロンビアネコブセンチュウ
学名：*Meloidogyne fallax* Karssen
英名：false Columbia root-knot nematode

分布

オランダ、スイス、フランス、ベルギー、オーストラリア及びニュージーランド

寄主植物

アスパラガス、オランダイチゴ、キクゴボウ、トマト及びジャガイモの生植物の地下部

形態

本種は、コロンビアネコブセンチュウの1系統とされ

ていたが、1996年に新種として記載された。雌成虫は乳白色の球形～洋なし形で、体長は404～720μmである。会陰紋は、円形～楕円形で時に角ばる。条溝は荒く、弓状域（アーチ）の高さは、低～中程度である。雄成虫は糸状で尾が丸く、体長は、736～1520μmである。2期幼虫は糸状で尾端は丸く、体長381～435μmである。



図 ニセコロンビアネコブセンチュウ（ニンジンの被害）

生態

他のネコブセンチュウと同様、卵内で1回脱皮した感染態の2期幼虫はふ化後、根内に侵入する。根に侵入した2期幼虫は、分泌物により根にゴールを形成し、3回の脱皮を経て成虫となる。雌成虫は組織内で成熟した後、根の表面にゼラチン状物質からなる卵のうを作り、ほぼ単為生殖で増殖する。雄成虫は、土壌中に遊出して自由生活を営む。

被害

本種は根にゴールを形成させるため、根菜類の商品価値に大きな影響を与える。オランダ南東部の発生地域では、本種の寄生により市場に受け入れられなかったニンジンが20～45%に達したとの報告がある。

参考

写真は、European and Mediterranean Plant Protection Organization（URL <http://photos.eppo.org/index.php/search/fallax>）のホームページから許可を得て掲載。